



ボロルマー・トゥブ県社会保険事務所長、エンフトンガラグ・サービス担当部長、バトヒング研修担当職員と協議後に撮影

JICA 社会保険実施能力強化プロジェクト ニュースター第 4 号



2016 年 10 月②

★プロジェクトホームページを開設しました★ [HTTP://WWW.JICA.GO.JP/PROJECT/MONGOLIA/014/INDEX.HTML](http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/index.html)

主な内容 (次項)

トゥブ県社会保険事務所の視察を行いました。



トゥブ 県社会保険事務所所員執務室

9月21日、社会保険実施能力強化プロジェクトのパイロットサイトの一つであるトゥブ県(ウランバートル市から約50km)の社会保険事務所の視察を行いました。社会保険・年金分野で長く経験を積んでこられたボロルマー所長からは同県の社会保険事務所での取り組みや課題について説明があったほか、年金の制度や日々の業務をいかに向上させるかにつき、活発な意見交換を行いました。



トゥブ 県社会保険事務所の窓口の様子

トゥブ県セルゲレン村の社会保険事務官を訪問しました。

また、トゥブ県セルゲレン村に常駐する社会保険事務官を訪問しました。(トゥブ県セルゲレン村:人口1841人、老年年金受給者205名、年金保険加入者279名 ※トゥブ県社会保険事務所ウェブサイトより) 村民からの年金に係る照会を携帯電話で受けていることや、村を巡回する際に遊牧民に対してどのように年金保険を広報しているかなど、貴重な話を聞くことができました。また同時に、年金加入者の促進や業務効率化について、どのような課題があるかにつき、意見交換を行いました。(写真下↓)



村の合同庁舎



今後も、パイロットサイトを中心とした社会保険事務所や村の社会保険事務官を訪れて意見交換をすることとし、年金実務の現状を正しく把握し、今後のプロジェクトの活動に生かしていきたいと思っております。



連載「草原の国の社会保障」第3話

モンゴルにおける社会保険の実情や、本プロジェクトを通して思う事などを随時お伝えいたします。今回は、モンゴル国民の将来に対する思いについてです。(写真:ウィークリーミーティング研修会の様子)



プロジェクトの広報活動

ロータリークラブや、モンゴルを訪問しているジャーナリスト、学校など様々な場所で広報活動を行っています。(写真:ロータリークラブ「ロータクト」での活動の様子)

草原の国の社会保障

(第 4 話)

皆さま、こんにちは。今回は、未来に対するモンゴル国民の期待について、民間団体の調査を通じて感じたことをお伝えします。

モンゴルとドイツの民間団体の共同調査によると、モンゴル社会の近い将来について、88.8%もの方々が「明るい」と回答（7.5%の方が不透明と回答）しています。これは日本から見ると驚くべき数値です。質問は違いますが、日本の内閣府の 2016 年度の「国民生活に関する世論調査」によると、生活は、これから先、どうなっていくと思うかの問いに対し、「良くなっていく」と答えた者の割合

が 8.7%、「同じようなもの」と答えた者 62.9%、「悪くなっていく」と答えた者が 25.8%でした。モンゴルと日本と同じ条件の下で調査したのではないので、比べることはできませんが、将来を明るく、楽観的に捉えているモンゴルの方々を、うらやましと感じています。

さて、この共同調査では、別の質問も行われています。「貧富の差や収入の格差を減らすことについて政府は対策を行うべきという考えについてどのように考えるか」との問いに対し、「差を絶対になくすべき」35.5%の者が賛同し、「差がある程度なくすべき」が 49.1%、「介入しない方がいい」は 8.5%、「状況・事情に応じて対応すべき」4.1%、「無回答」0.1%、「わからない」2.6%でした。これを見ると、84.6%という圧倒的な方々が「貧富の差や収入の格差」に関して政府が何らかの対策をとるべきと考えていることがわかります。

「悲観主義は気分のものであり、楽観主義は意志のものである」。フランスの哲学者アランが著書『幸福論』で示したとおり、未来を明るく見る人たちは、「自分たちで未来を明るくしていく」という意志を強く持っているということでしょう。高齢になることや死亡は絶対避けられません。病気になってしまう恐れもあります。そして、これらのリスクによって収入が激減するかもしれない。しかし、たとえ不安があったとしても、皆で支え合う社会保障制度があることを皆さんに知っていただきたい。これからもモンゴルの方々が楽観主義で明るい未来を迎えるため、私たちのプロジェクトで少しでもそのお手伝いができればと思っています。

チーフアドバイザー 山下 護

¹ http://www.kas.de/wf/doc/kas_18872-1442-18-30.pdf?160409103353

¹ <http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-life/index.html>

プロジェクトの広報活動に取り組んでいます！

●9月14日、モンゴルにおける若者によるロータリークラブの一つ「ロータアクト」において、プロジェクトの活動を説明するとともに、モンゴルの将来を支える若者と意見交換を行いました。特に貯蓄と社会保険（年金）の違いや、モンゴルの社会保険の現状について活発に意見が交わされました。



↑ロータアクトの皆さんと撮影

●9月15日、「日本労働ペンクラブ」(労働、雇用、社会保障など働くことに伴う様々な問題に関心を持つ日本のジャーナリストなどの親睦団体)の方々がモンゴルを訪問され、その機会にモンゴルにおける社会保障の現状やプロジェクト概要について、説明を行いました。(写真下：説明の様子)



日本労働ペンクラブ： <http://roupen.club/index.html>

●10月7日、新モンゴル学校（小中高一貫校、日本語・日本式教育が導入されている学校。）にて、山下チーフアドバイザーが高校 2～3

年生の生徒約 300 名に対して、年金の意義についての講義を行いました。生徒からは、「今まで年金について考える機会がなかったが、若い時から加入する意味について理解が出来た」という感想のほか、「モンゴルの年金分野は、今後どのような政策をとるべきか？」といった活発な質問が寄せられ、充実した講義となりました。



↑講義を受けた生徒の皆さんと撮影

プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160,
モンゴル社会保険庁内 6階 602号室

電話(FAX)番号：(+976)-11-325125

ニュースレターのバックナンバーはこちらから

<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>

公式 Facebook アカウント：Жайка Нийгмийн Даатгалын төсөл

QRコードからもご覧いただけます→



←質疑応答の様子